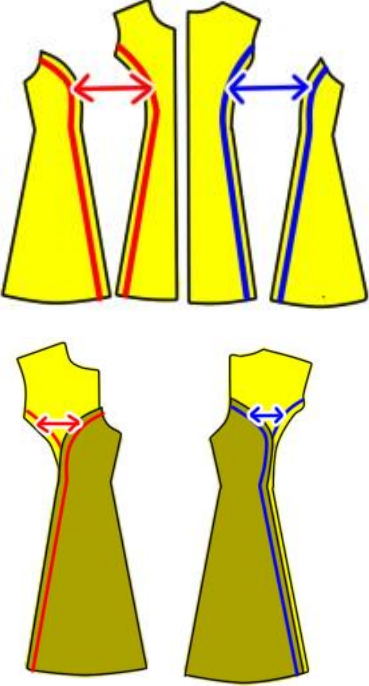
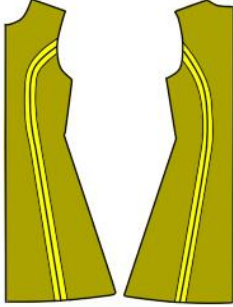
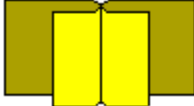
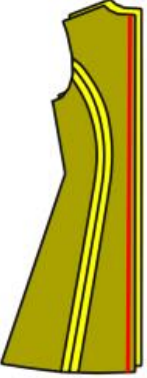
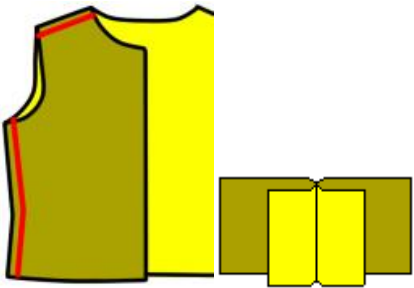
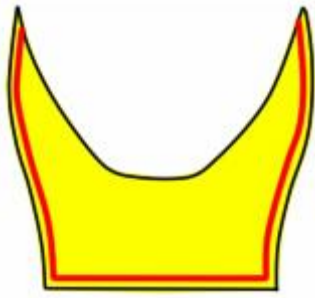
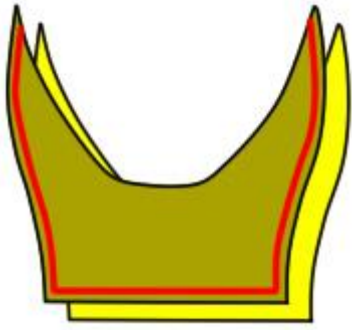
 <p>表 裏 接着芯</p>	<p>裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをしてください。</p> <p>指定された場所の裏に接着芯を付けてください。</p> <p>くわしくは縫う前の下準備を参照してください。お洋服に模様や刺繍を入れたい場合はこの時点で入れておくと楽です。</p>
	 <p>前身頃のと前身頃脇を図のように表同士が内側になるように重ねてください。 赤い線のところを縫ってください。 後身頃と後身頃脇は青い所を縫ってください。</p> <p>縫い終わったら縫い代をアイロンで左右に折って下さい。</p>  <p>←お裁縫の用語で割るといいます。</p>
	<p>後身頃を表が内側になるように重ねて縫ってください。</p> <p>縫い代にアイロンをかけ左右に折って下さい。</p>
	<p>前後の肩と脇を縫ってください。</p> <p>縫い代にアイロンをかけ左右に折って下さい。</p>

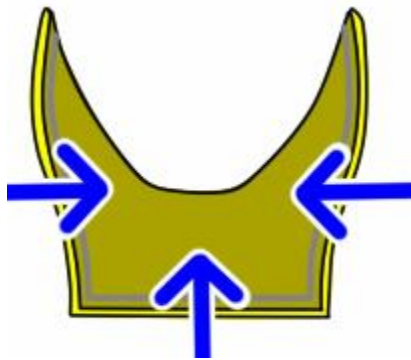


えり柄を入れる場合は先にここで入れてください。
 アイロン両面接着テープを使うとゆがみにくいです。
 (あくまで仮止めとして使い、ミシンで縫いとめてください)

えりを付けない場合は★のついた部分は飛ばしてください。



セーラーカラー同士を表が内側になるように重ねて回りを縫ってください。



このとき図のように「表に見えるほうのえり」を2~3mm内側にずらしてまち針をさし、しわが入らないように、注意して縫ってください。

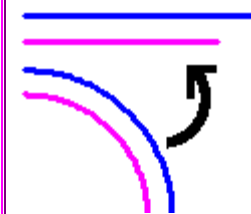


上記のように表を少し中に入れ込む理由はえりは実際に人間が服を着たとき、首周りのカーブと肩のカーブにそっています。

外側のカーブと内側のカーブでは外側のほうが長く、内側が短くなります。

その分を補うために2~3mm表になるほう(外側に折り返すほう)を内側に入れ込んで、長さを調節しているのです。

これをしないと一番下のえりのようにに引きつってえりの先がぴよこっとあがってしまうので注意が必要です。





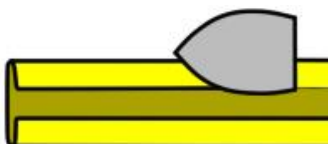
表に戻して、端から 5mm くらいの所を縫ってください。
あまり布のギリギリを縫いすぎると、ミシンの針穴にえりの先が食い込むので注意！！



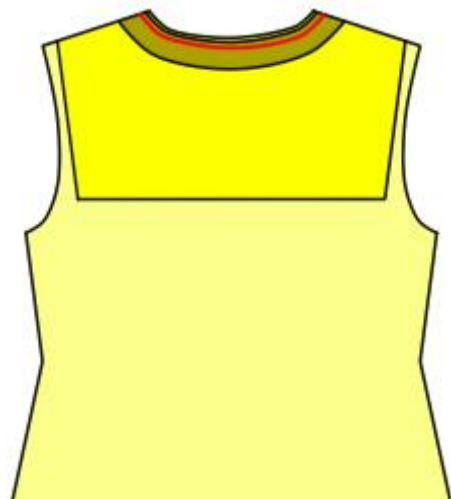
表にした身頃にえりを表にして重ね、えりくびを仮止めしてください。
仮止めなので端から 5mm くらいの所を縫ってください。



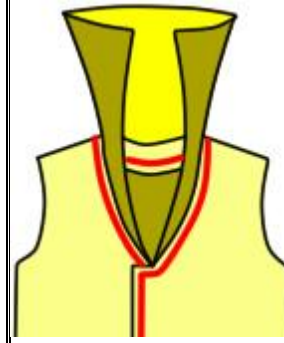
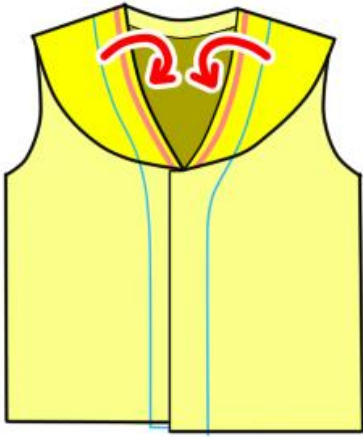
まえみごろに見返しの裏を上にして重ねてください。
赤い部分を縫ってください。



バイアス(布の縦横に対し斜めの角度で切った布)テープの縫い代をアイロンで折ってください。



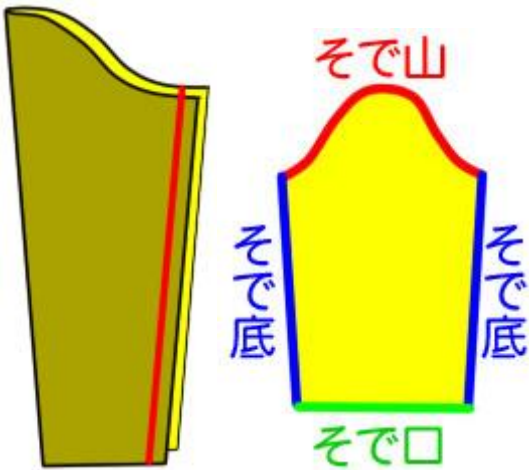
前の見返しに少し重なるようにバイアステープを後えりぐりに重ねてください。
えりを縫ってください。



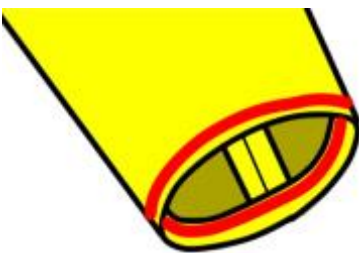
見返しと、バイアステープを中に折ってください。アイロンで折り目をつけてください。えりをよけて見返しとバイアスを縫ってください。



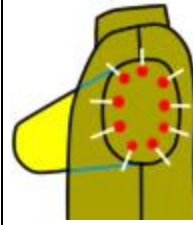
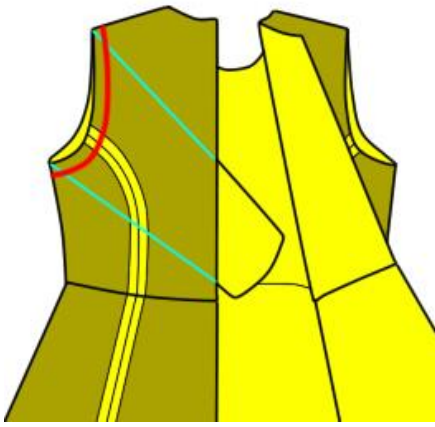
ボタンホールをあけ、ボタンを付けてください。ボタンホールのあけ方はミシンによって異なるのでミシンの説明書を見てください。ボタンホールが苦手な人はスナップボタンでも良いです。



そでを縫ってください。



そで口の縫い代を内側に折って縫ってください。



見頃(胴部分)は裏返して、そ
では表側にひっくり返してくだ
さい。
見頃の中にそでを入れてくださ
い。

肩と、脇を最初にあわせてまち針でとめてくださ
い。

縫う場所より2~3ミリ横を仕付け糸を使い縫っ
ておくと、ミシンで縫う時に針を折る心配がなく
ていいよ!

しつけ縫いをしたらミシンで縫ってください。



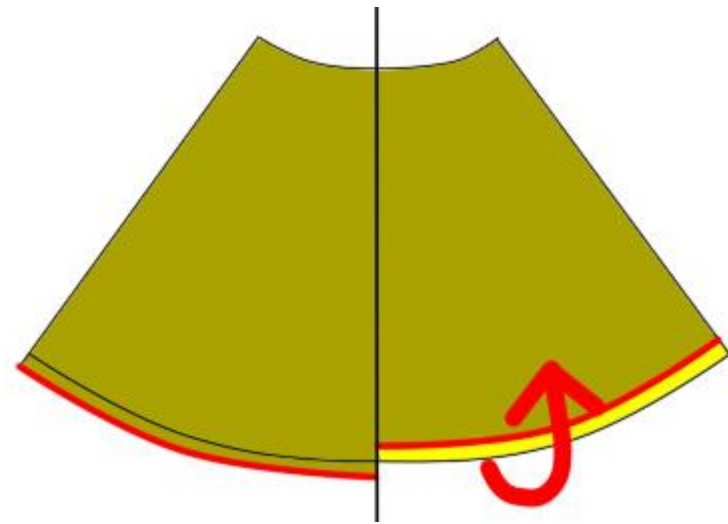
すそをあげてください。

すそをあげるときスカートのすそがカーブしてい
ると、カーブの弧は内側と外側では長さが異な
るので、折りあげた時端がだぶついてしまいま
す。

そのため、すそから5mm位の所にギャザーを
寄せてください。

大きなしわが入らない程度に縮めながら、アイ
ロンで縫い代を折ってください。

縫い代より0.5cm短い所を縫ってください。



必要な道具

表生地 接着芯、スナップかボタン、お好みでラインテープかりボン

オススメの生地

ポリエステルツイル

しわになりにくい

販売店により、張りのあるものとないものがある。

パニエなどをはくならどちらでもいいが、はかないのであれば張りがあるものの方がシルエットが綺麗に仕上がる

サンプルを取り寄せておくと失敗が少ないです

綿ツイル

色数も多く、手芸店においてあるので手に入りやすい。

ポリエステルツイルに比べシワになりやすい

ポリエステルアムンゼン

梨地織りという織り方をした生地で、軽くしわになりにくい。

これもお店によって張りのあるものないものがある

ポリエステルサテン

舞台衣装など派手にしたいときに。

裏は光沢がないものが多いので、裏を表にして、しっとりとした質感のほうを使ってもよい。

身頃をポリエステルツイル、えりをサテンという風に変えても問題ありません